

麦づくり情報(No.4)



1. 麦作況情報田の生育概況(3月2日現在)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/10	32.8	1347	8.9	35.7	◎農試平年値と比較する。 (昨年値はカモ食害の影響があったため) 草丈は平年より高い。(191%) 茎数は平年より多い。(149%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		昨年値	12/14	(21.9)	(786)	(6.8)	-	
		農試本年値	12/10	34.0	924	8.0	-	
		農試平年値	12/10	17.2	903	6.2	-	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/21	(45.7)	(218)	(9.7)	36.8	※調査区は鳥害の影響あり。葉色は調査 区外を測定。 ◎農試データの生育から 草丈は平年より高い。(189%) 茎数は平年よりやや少ない。(94%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		平年値	11/29	31.2	784	7.2	-	
		農試本年値	11/20	55.0	709	8.6	-	
		農試平年値	11/20	29.1	756	7.3	-	

※農試本年値、平年値は作況の3月2日調査データを記載

2月3～6半旬の気象状況は、平均気温 10.0℃ (平年+2.7℃)、降水量 132 mm (平年比 220%) と、高温で降水量が多い天候が続いている。

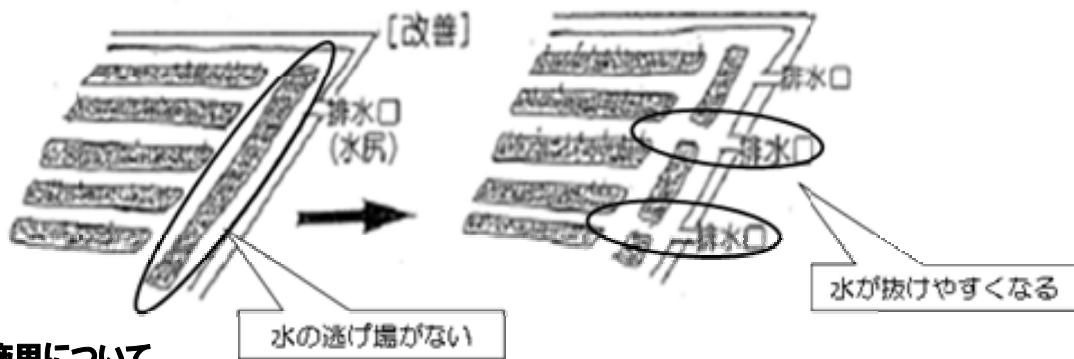
小麦で11月中下旬播種した圃場では、葉齢が8～9葉期を迎えている。また、大麦で12月上中旬播種した圃場では、現在8～9葉期を迎えており、小麦・大麦ともに茎立ち期(節間長20～30mm)を過ぎている圃場がある。

多雨傾向によりまくら地に滞水し、排水が悪い圃場では麦の黄化している圃場が見受けられる。

2. 今後の管理

○排水対策

1月下旬～2月にかけて平年の2倍以上の降雨があった。湿害により根の生育が抑制され、登熟に影響するため、葉の黄化がみられる圃場では、排水溝を再整備するなど排水強化を行う。



○穂肥施用について

ビール大麦 【タンパク質含有率値確保(10～11%)のため、穂肥施用を行う】

2月の降水量と葉色により、穂肥量を決定する。

降水量が多い場合は、肥料の流亡が多くなるため、施肥量を多くするという考え方である。

ただし、倒伏を招く可能性があるため、過剰な施肥は行わない。時期は、茎立期頃までに実施する。大豆後においても同様に施肥を行うが、中間追肥を減らさずに行った圃場においては施肥しない。

今年の2月の降水量は
132mmである。

	2月の月間降水量 平年値:77mm	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 BB602(N成分)/10a
大麦	100mm以上	葉色にかかわらず 原則施用する	20(3)kg
小麦			地域のこよみに準ずる

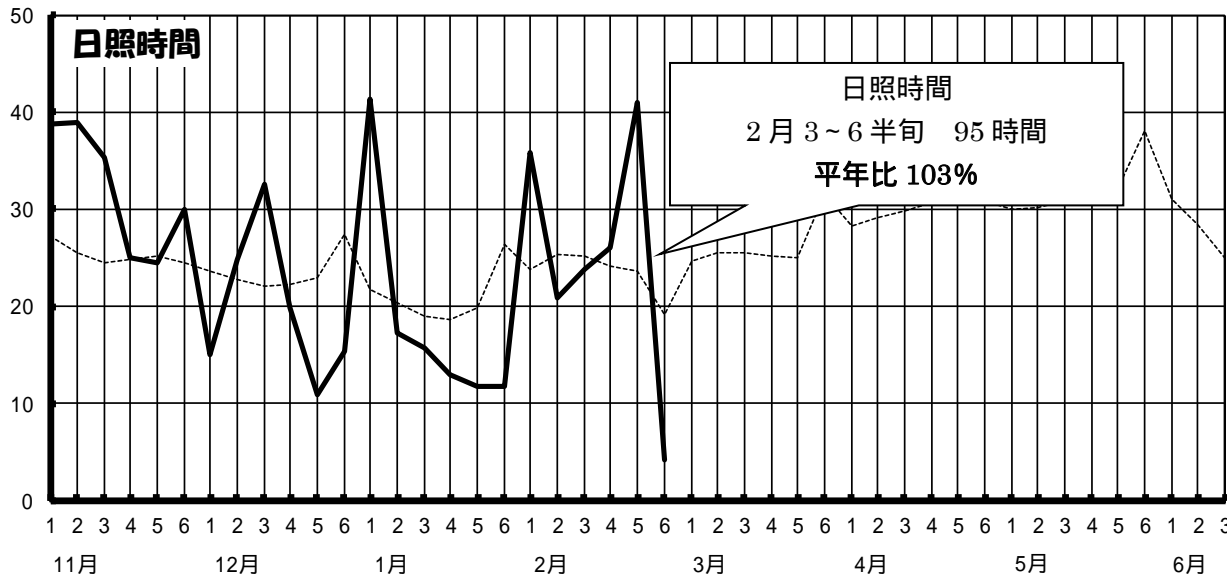
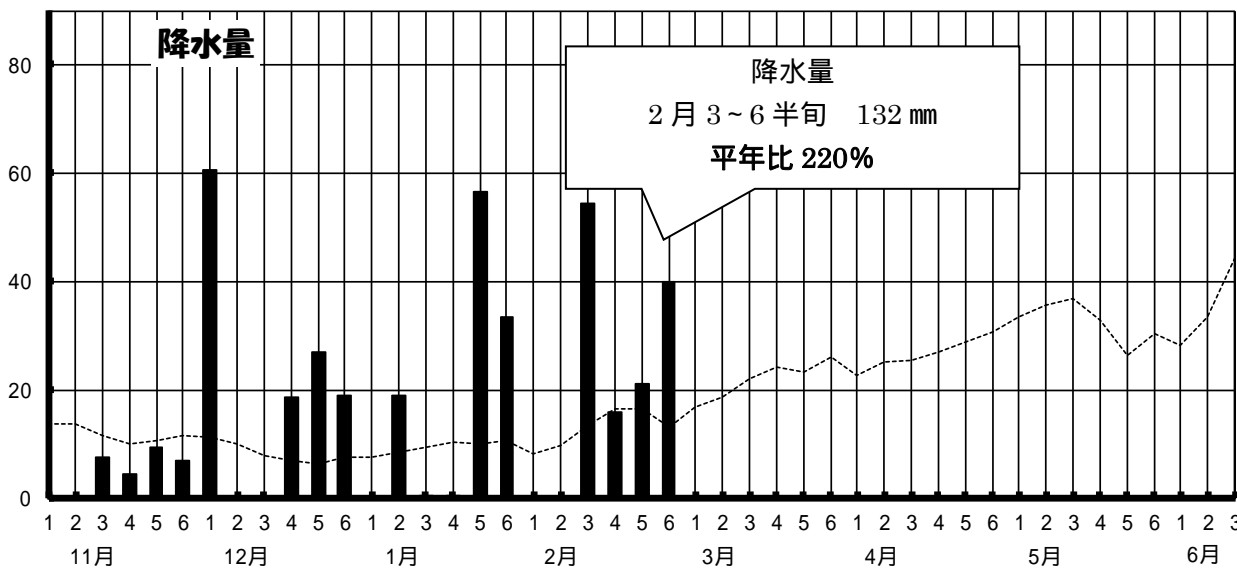
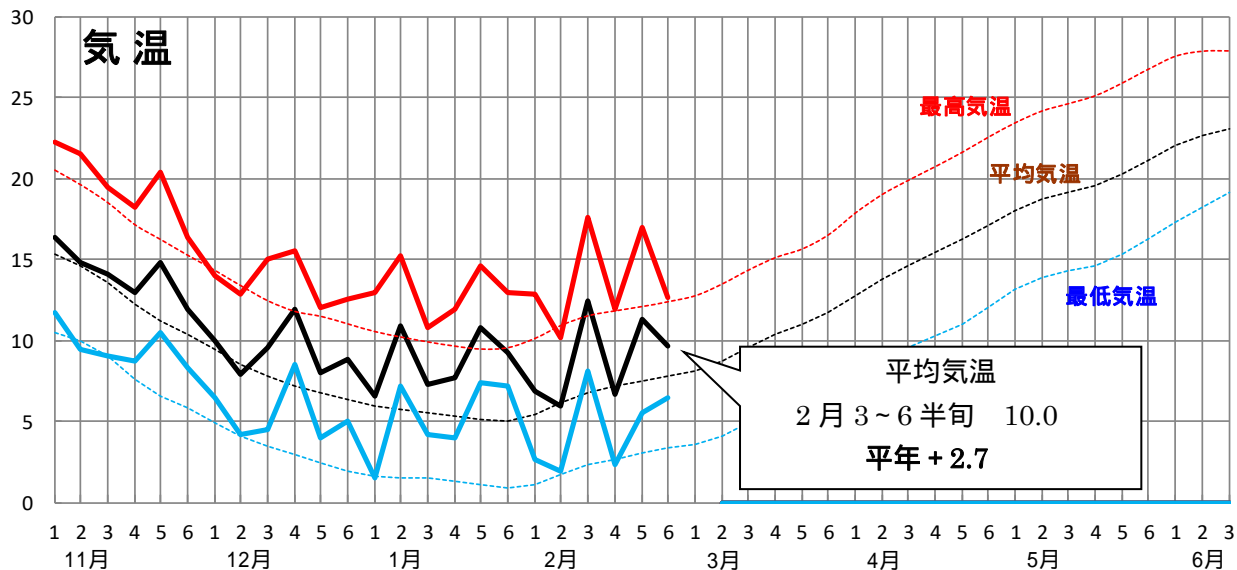
○病害虫防除

大麦：一部圃場で網斑病の発生がみられる。若い葉で確認された場合は、直ちに網斑病対策としてチルト乳剤で防除する。

2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値